

コスモ石油(株) 新・連結中期経営計画 06年度上期進捗状況と今後の方針

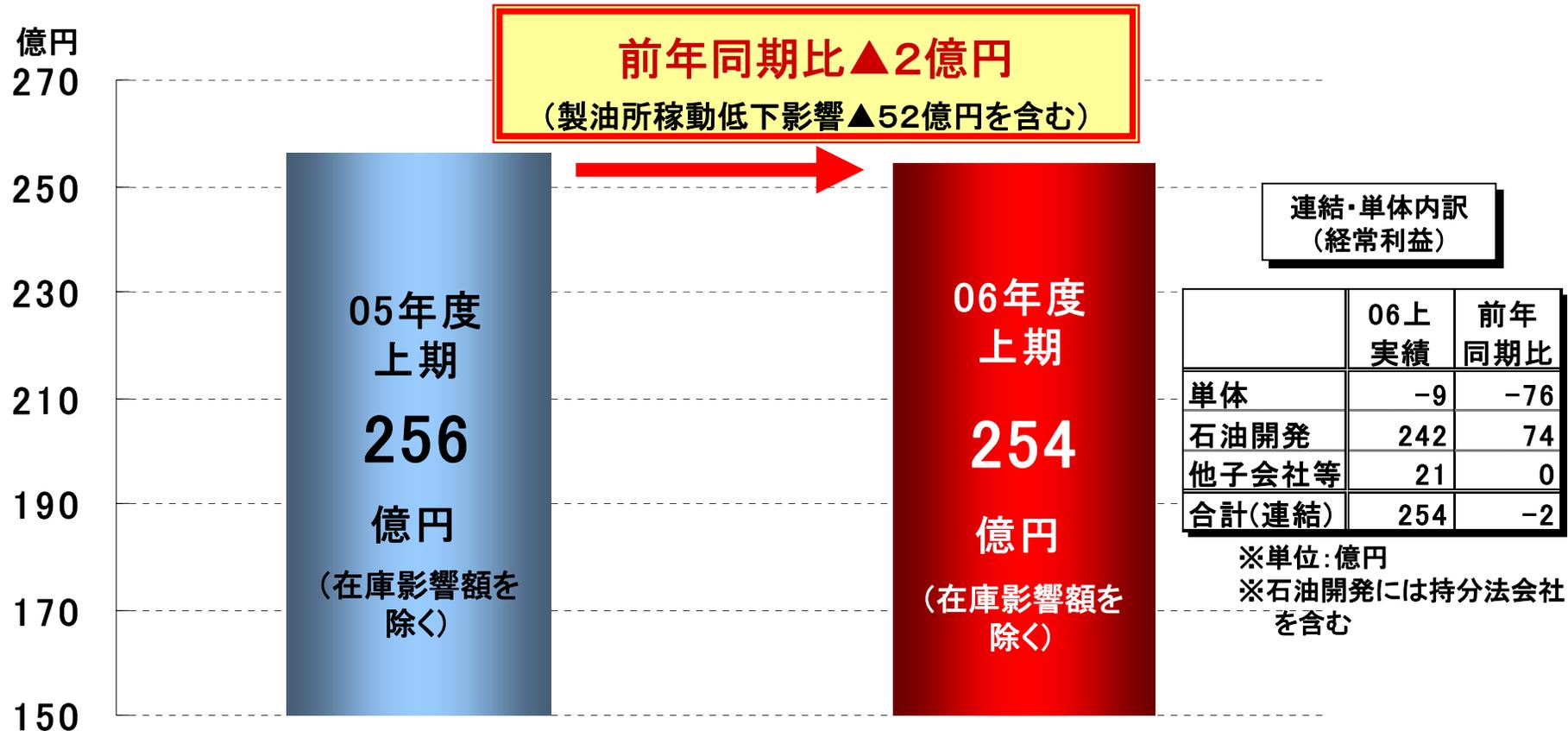
2006年11月8日

代表取締役社長：木村 彌一

常務取締役：近藤 直正, 宮本 諭

本日のご説明内容

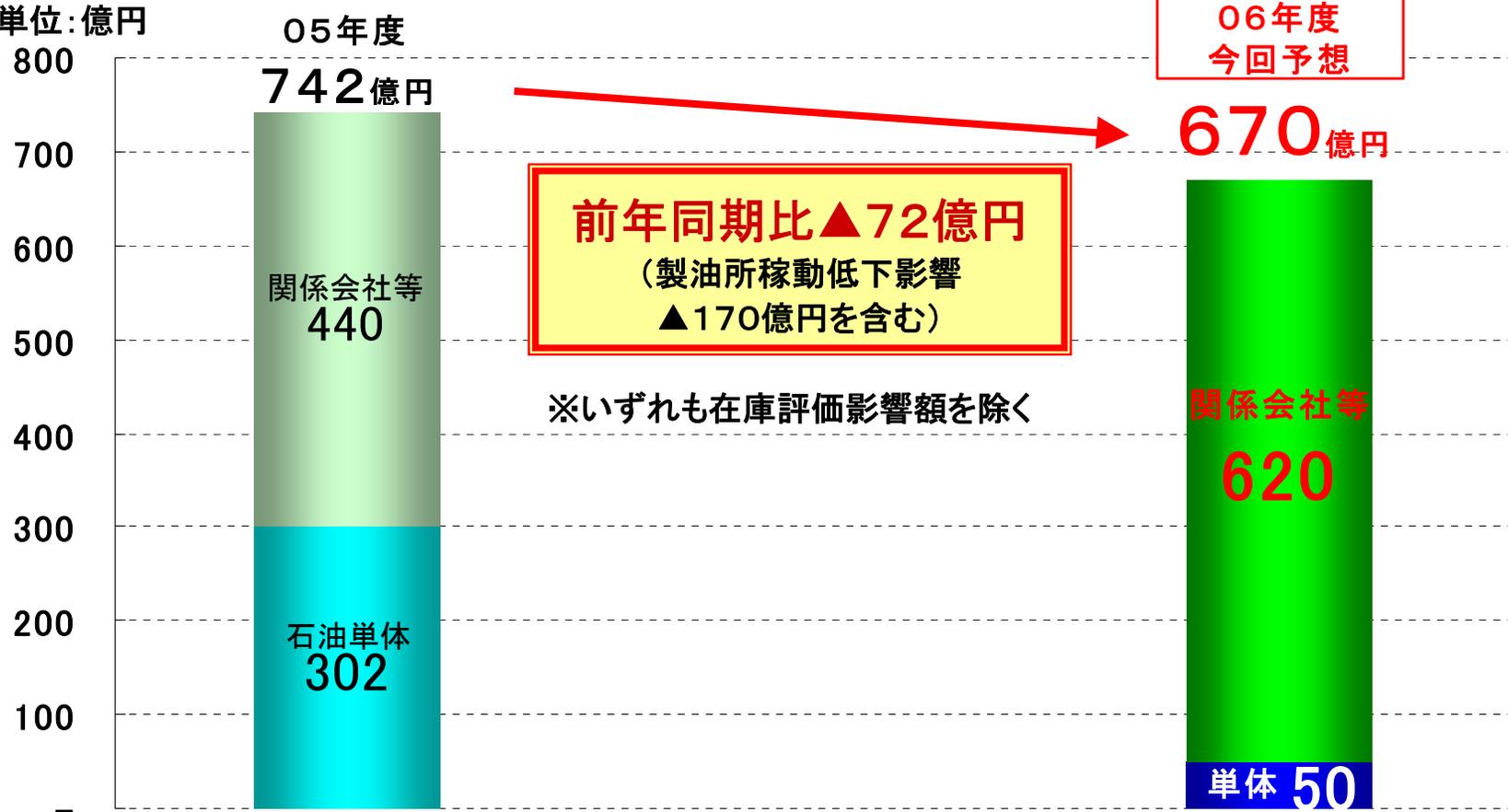
	06年度上期決算総括と 下期(通期)基本方針	1～3 ページ	代表取締役社長 木村 彌一
中計の進捗と今後の方針	06年度上期 決算の概要	4～7 ページ	常務取締役 宮本 諭
	06年度通期 業績予想の概要	8～9 ページ	
	部門別進捗と今後の方針	10～16 ページ	常務取締役 近藤 直正



原油前提(下期): 58\$/B
 為替前提(下期): 120円/\$

06年度予想経常利益
 (在庫評価影響額除き)
670億円

※単位: 億円



中計の確実な実行

《石油単体》
付加価値向上
・合理化 の推進

《石油開発》
生産量の維持・拡大

《石油化学》
ミックスキシレン事業

《CSR強化》
安全管理体制
企業倫理遵守 の強化

連結経常利益
(前年同期比)
▲72億円

(前年) (予想)
742億→670億

※数値は通期ベース
※在庫評価影響額を除く
※石油開発には持分法会社を含む

単体
▲252億円

(前年) (予想)
302億→50億

付加価値向上
・合理化 効果: +54億円

製油所稼動低下影響: ▲170億円

その他要因: ▲136億円

関係会社
+180億円

(前年) (予想)
440億→620億

石油開発会社: +150億円

CMアロマ: +24億円

その他関係会社等: +6億円

【上期決算】連結 損益ハイライト

	2006年度上期	前年同期比
連結経常利益	506億円	▲66億円
在庫評価の影響	252億円	▲64億円
連結経常利益 (在庫評価の影響除き)	254億円	▲2億円

在庫評価影響除きの連結経常利益 前年同期比▲2億円 主な要因

プラス要因

市況の改善、中計効果、輸出

石油開発、石油化学等連結子会社の貢献ほか

マイナス要因

自家燃コスト上昇、販売数量減

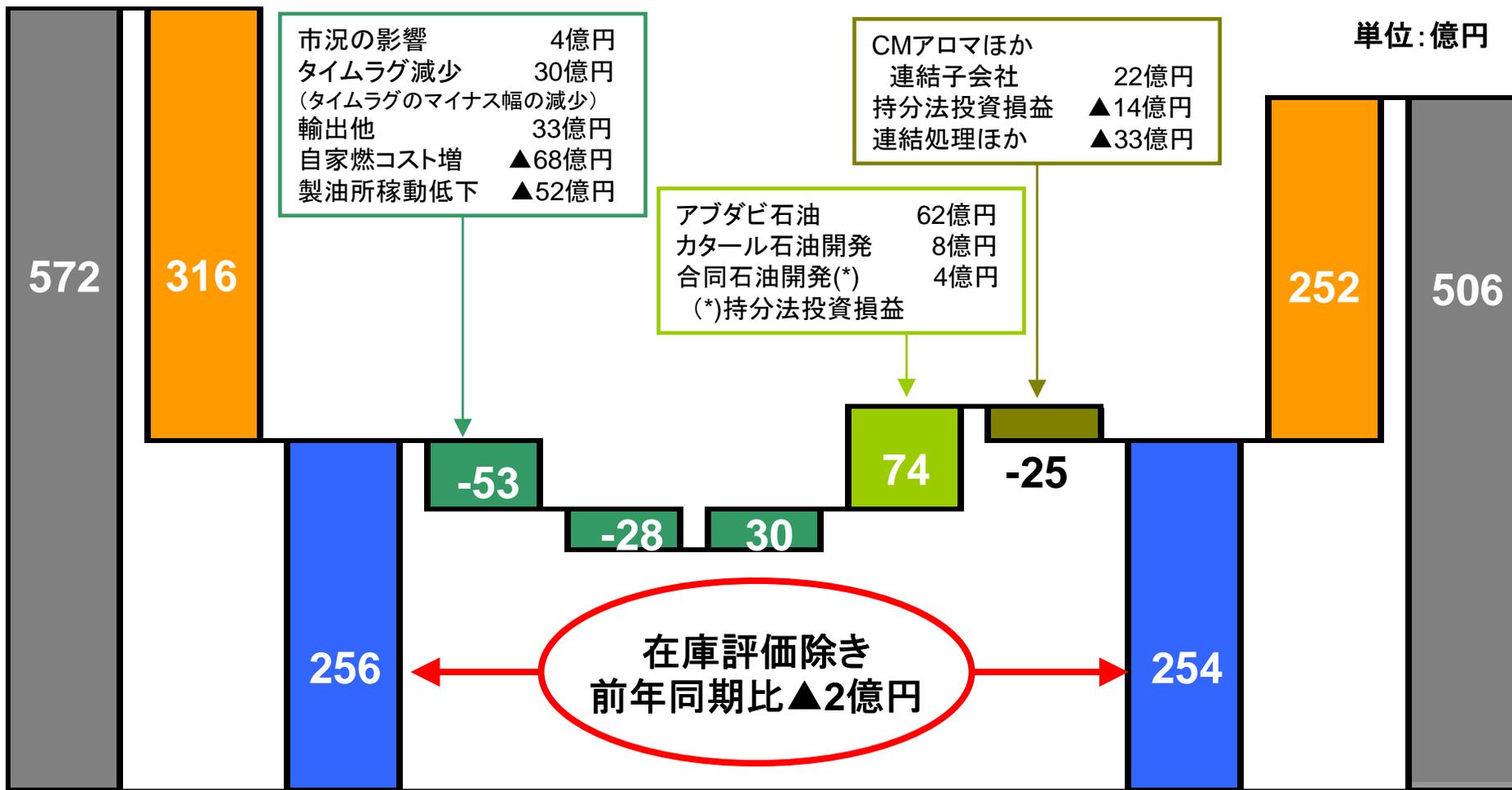
製油所稼動低下の影響(52億円)

※原油価格、販売数量・伸び率、販売価格などについては、補足資料1を参照ください

All Right Reserved. Copyright © 2006 ,COSMO OIL CO.,LTD.

【上期決算】連結 経常利益 前年同期比 ▲66億円 増減分析

単位:億円



2005年度 上期実績			2006年度 上期実績							
経常利益	在庫評価の影響	在庫評価除きの経常利益	石油単体			石油開発	その他	在庫評価除きの経常利益	在庫評価の影響	経常利益
			市況影響・供給コスト増他	販売数量減	中計効果					

【上期決算】連結会社 主要連結子会社・持分法適用会社の実績

6

<<主要連結子会社 経常利益>>

単位:億円

		実績	前年同期比	要因
主な 石油開発 会社	アブダビ石油	214	62	①原油価格上昇(48.2→64.7\$/BBL) ②円安(105.3→116.2¥/\$)他
	カタール石油開発	10	8	①06年3月より生産開始 ②油価(65.14\$/BBL)、為替(115.3円)
	合同石油開発 (持分法適用会社)	18	4	①原油価格上昇(48.5→65.1\$/BBL) ②円安(106.1→115.7¥/\$)他
	合計	242	74	
販売子会社		▲ 15	▲ 23	マージン減、セルフSS推進に伴う経費の増
コスモ松山		11	3	市況好調によりスプレッド拡大
CMアロマ		22	21	06年7月より27万トン体制へ(10⇒27万トン) 市況好調によりスプレッド拡大
その他連結会社		33	21	

<<持分法適用会社>>

※:主要連結子会社別、セグメント別実績については、補足資料3を参照ください

	実績	前年同期比
持分法投資損益	40	▲ 10

【上期決算】連結 C/F および B/Sの概要

単位:億円

	実績	前期末比	主な要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 551	-	油価上昇による売掛債権、たな卸資産の増加など
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 146	-	
財務活動によるキャッシュ・フロー	803	-	
期末のキャッシュ残高	672	106	

	実績	前期末	増減
総資産	16,119	14,636	1,483
純資産	3,533	-	-
株主資本	-	3,125	-
自己資本※	3,365	3,125	240
自己資本比率※	20.9%	21.4%	0.5ポイント悪化
有利子負債(ゼロクーポン社債を含む)	6,081	5,224	857
有利子負債依存度	37.7%	35.7%	2ポイント悪化
D/Eレシオ(倍)※	1.8	1.7	0.1ポイント悪化
ネット有利子負債(ゼロクーポン社債を含む)	5,429	4,658	771
有利子負債依存度	33.7%	31.8%	1.9ポイント悪化
D/Eレシオ(倍)※	1.6	1.5	0.1ポイント悪化

※当上期実績については「自己資本(純資産一少数株主持分)」、前期末実績については従来の「株主資本」で計算しています

【通期予想】連結 業績予想①

	2006年度通期	前期比
連結経常利益	790億円	▲406億円
在庫評価の影響	120億円	▲334億円
連結経常利益 (在庫評価の影響除き)	670億円	▲72億円

在庫評価影響除きの連結経常利益 前期比▲72億円 主な要因

プラス要因	市況の改善、中計効果
	石油開発、石油化学等連結子会社の貢献ほか
マイナス要因	自家燃コスト上昇、販売数量減
	製油所稼動低下の影響(▲170億円)

※1:業績予想の前提の詳細については、補足資料1を参照ください

※2:主要連結子会社別、セグメント別の業績予想については、補足資料4を参照下さい

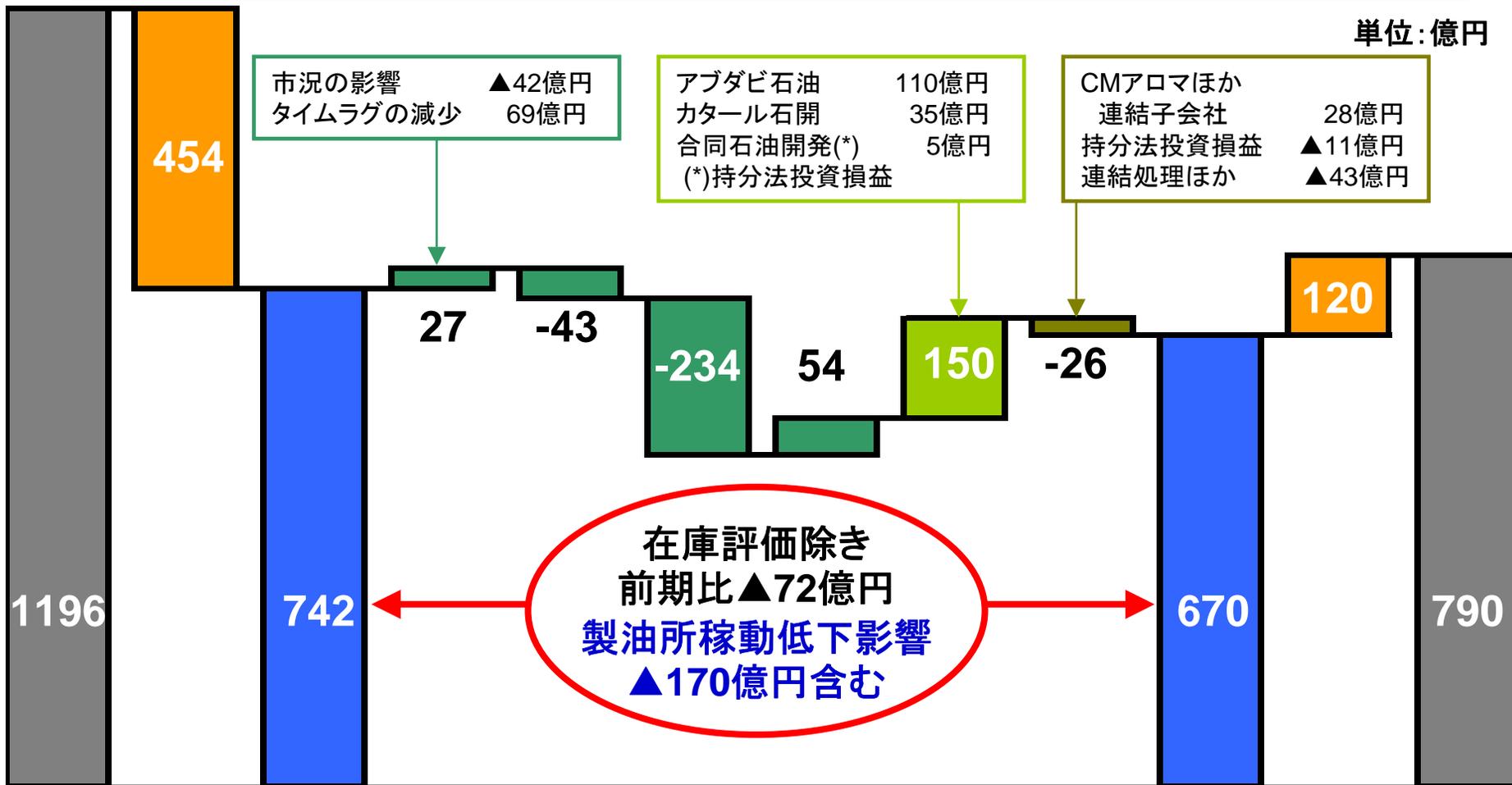
All Right Reserved. Copyright © 2006 ,COSMO OIL CO.,LTD.

 **COSMO OIL CO., LTD.**

<http://www.cosmo-oil.co.jp>

【通期予想】連結 業績予想② 経常利益 前期比▲406億円増減分析

単位:億円



2005年度 通期 実績			2006年度 通期 業績予想								
経常利益	在庫評価の影響	在庫評価除きの経常利益	石油単体				石油開発会社	その他	在庫評価除きの経常利益	在庫評価の影響	経常利益
			市況の影響	販売数量減	供給コストの増加他	中計効果					

《06年度上期実績》

30億円

《06年度下期予想》

24億円

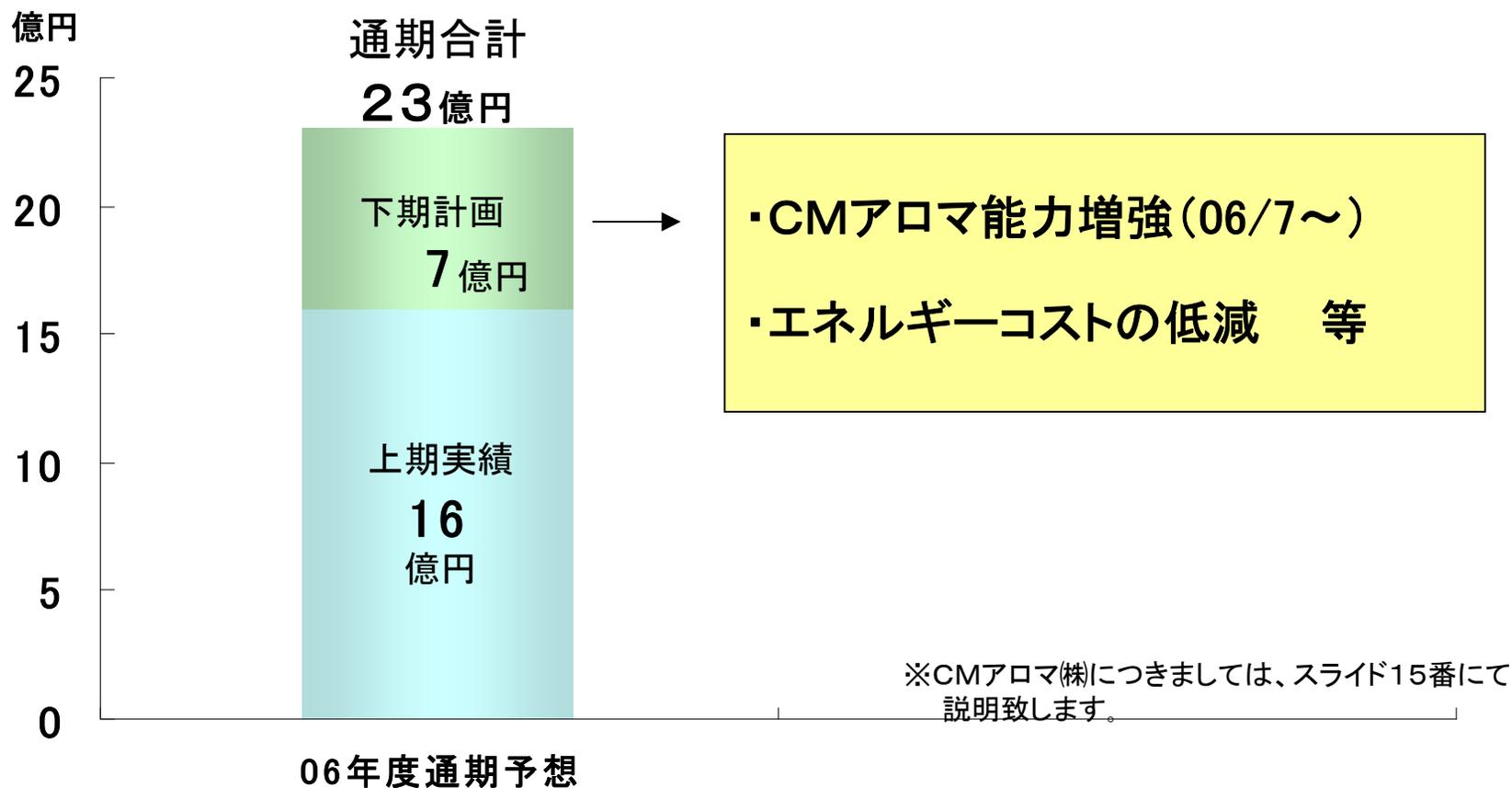
《06年度通期予想》

54億円

※単位:億円, %

項目	部門	2006年度上期			06年度 下期 計画	06年度 通期 計画
		前回 見通し	実績	達成率		
		(①)	(②)	(②÷①)	(③)	(②+③)
付加価値 向上	供給部門	14	13	96%	3	16
	販売部門	9	7	77%	15	22
	その他部門	1	0	N.A.	0	0
	小計	24	20	83%	18	37
合理化	供給部門	4	3	78%	4	7
	販売部門	5	5	100%	0	5
	その他部門	2	2	75%	3	5
	小計	11	10	87%	7	17
総合計	供給部門	18	16	92%	7	23
	販売部門	14	12	84%	15	27
	その他部門	3	2	67%	3	5
	合計	35	30	84%	24	54

安全・安定操業と精製付加価値の向上



経営環境の変化

原油価格高騰による
SS店頭価格高騰の長期化

- ・低価格志向の高まり
- ・SS、ブランドの選別が更に厳しく

基本方針

販路構成改善・油種構成改善・マスチャネル強化の推進

強化ターゲット
(従来より継続)

販路

出資店・地場店

油種

ガソリン・軽油

チャネル

SS

戦術テーマ

出資店

強化戦略の継続

セルフSS

セルフ志向への対応

Auto B-cleネットワーク

カーケアサービスの充実

コスモ・ザ・カード

利便性の提供

ノウハウ
の
水平展開

地場特約店

パートナーシップ強化

セルフSS

Auto B-cleネットワーク

コスモ・ザ・カード

特約店経営改善

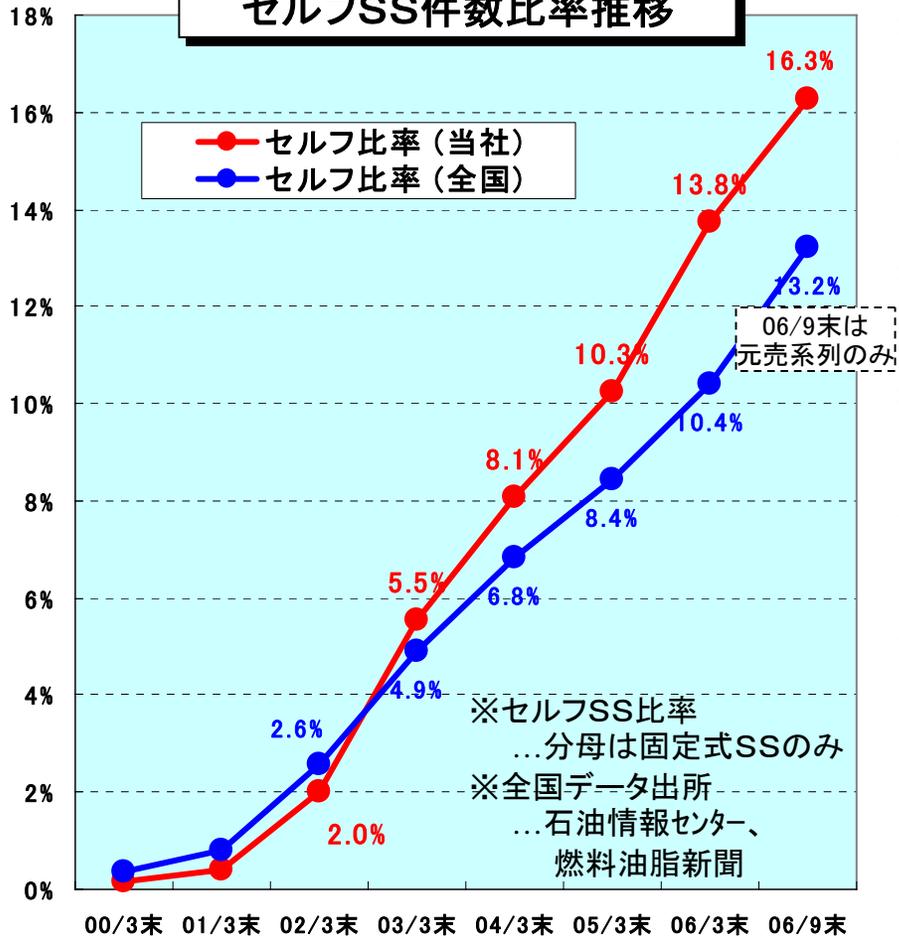
セルフSS展開

06年度上期末現在: 720SS
 (上期展開数...94SS)
 セルフSS比率...16.3%

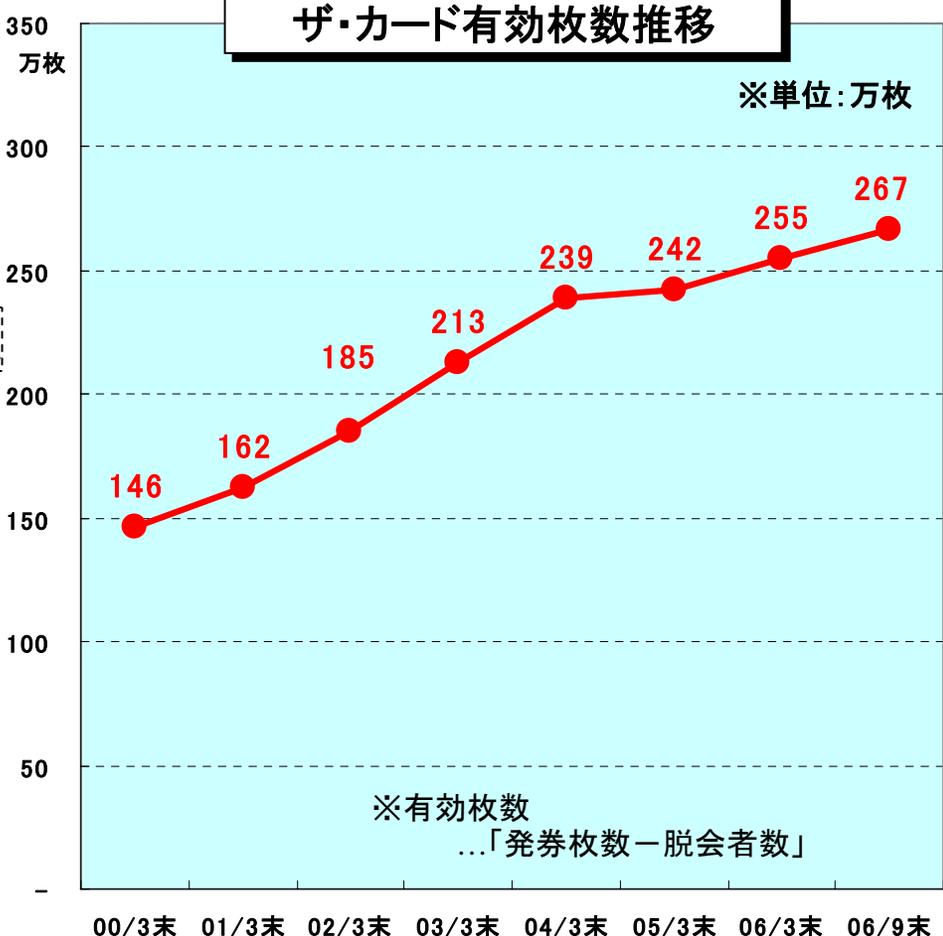
ザ・カード発券

06年度上期末現在: 267万枚
 (06年度上期増加数...12万枚)

セルフSS件数比率推移



ザ・カード有効枚数推移



◆石油開発部門の損益実績・計画

項目・社名		単位	06年度 上期実績	06年度 通期予想
ドバイ原油(注1)		USD/BRL	61.4	62.5
経常利益	アブダビ石油	億円	214	430
	カタール石油開発	億円	10	35
	合同石油開発	億円	168	350
当期利益 (注2)	アブダビ石油	億円	66	135
	カタール石油開発	億円	3	15
	合同石油開発	億円	57	131

(注1)出所:PLATT'S(1-9月)及び当社予想(10-12月)。「上期」は1-6月平均、「通期」は1-12月平均です
 (注2)当期純利益は、上記のうち当社持分相当のみが連結PLに寄与します

◆カタールプロジェクトの進捗状況

プロジェクト概要

<商業生産計画概要>

生産期間:2006年~2016年

生産量 :初期 約 6,000バレル/日

最大 約10,000バレル/日

出荷 :カタールハルル島よりカタールマリン原油として出荷

<カタール石油開発(株)概要>

設立:1997年9月

資本金:31億4,800万円

株主構成:当社85.8%、双日(株)14.2%

生産数量の状況

2006年3月13日~商業生産開始

時期	生産数量 (日量バレル)
06年3~6月	5,967
06年7~9月	6,261

(注)06年3月数量はカレンダーベースにて算出

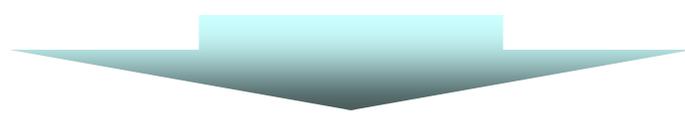
●2005年7月～

・CMアロマ株が、ミックスキシレンの製造・販売を開始(生産能力10万トン/年)。

●2006年7月～

・27万トン/年に能力増強 ...中期計画どおり

(コスモ松山石油(3万トン/年)と合わせ、グループ生産能力30万トン/年となる)



●2006年度上期決算・通期予想

・今上期は、中国を中心としたアジアでの堅調な需要に加え、米国のMTBE自主規制の影響を受け、キシレンマーケットが高騰。

原油高騰による原料費の上昇を上回った。

・下期も引き続きフル稼働を維持する予定。

損益の状況

項目	06年度上期		06年度通期	
	実績	前年比	予想	前年比
売上高	219	167	505	336
経常利益	22	21	34	24

※単位:億円

【CSR】事故・行政処分に対する再発防止策について

(1)安全管理体制の再構築

- ◆本年4月の事故を教訓とし、主な原因である「定点」と「構造変更」の問題を最優先課題に揚げ、機器の全定点の見直し、過去10年間の構造変更の検証を実施します。

(2)企業倫理遵守の強化

- ◆企業倫理委員会の下部組織として、各製油所にコンプライアンス委員会(委員長:製油所長)を設置し、企業倫理委員会が常時サポート、チェックすることで、製油所におけるコンプライアンスの徹底を図ります。
- ◆異常時の通報体制、設備変更工事に係わる法令上の手続きを再確認し、厳格運用します。

(3)製油所生産部門の牽制機能の強化

- ◆業務規程等を改定し、保安管理部門が製油所から独立して機能を発揮できるようにします。
- ◆保安担当役員と生産部門担当役員を分離します。
- ◆業務フローを整備・見直します。
全ての工事に対して保安管理部門が法令上の申請・届出の可否を事前に判断し、必要な手続きが全て完了した後初めて着工できるようにします。
- ◆監査・検査体制を充実させます。
製油所内部監査の他に、本社保安部門・他製油所保安部門による定期検査、そして本社監査室による監査を重畳的に実施します。

補足資料

1. 【決算・予想】 原油コスト・処理、販売価格・数量、原油生産量
2. 【決算・予想】 石油単体 中計進捗総括表
3. 【決算】主要連結会社・セグメント別実績：05年度上期実績比
4. 【予想】主要連結会社・セグメント別予想：05年度通期実績比
5. 【予想】主要連結会社・セグメント別予想：前回公表(5/16)比
6. 【予想】連結 経常利益 増減分析：前回公表(5/16比)
7. 【予想】在庫評価の影響除きのEBITDAの推移
8. 【決算】人員数、油槽所数、SS数、カード枚数推移

【決算・予想】原油コスト・処理、販売価格・数量、原油生産量

補足1

		上期実績	増減	伸び率	下期 前提
受入原油	原油(FOB)\$/BBL	65.93	14.09	—	58.00
	為替レート¥/\$	115.70	6.84(円安)	—	120.0
	受入原油代(税込)¥/KL	51,325	12,498	—	—
原油処理	原油処理量千KL	14,516	-331	97.8%	—
	トッパー稼働率(CD)	83.8%	-2.0%	—	—
	トッパー稼働率(SD※1)	94.5%	-1.1%	—	—
販売価格	販売価格(円/KL)	52,140	12,210	—	—
販売数量	ガソリン	3,451	-95	97.3%	97.6%
	灯油	843	-96	89.8%	95.7%
	軽油	2,341	-68	97.2%	97.6%
	A重油	1,561	-210	88.2%	93.3%
	4品計(千KL)	8,198	-467	94.6%	96.4%
	ナフサ	3,296	-307	91.5%	95.5%
	ジェット	198	42	127.0%	138.0%
	C重油	1,334	-172	88.6%	90.2%
	内需燃料油(千KL)	13,025	-905	93.5%	96.0%
	総販売数量(千KL)	21,292	-347	98.4%	97.5%
	ハイオクレシオ(%)	15.49%	-1.31%	—	—
石油開発会社生産量※2	アブダビ石油(B/D)	24,678	(出資比率 63.0%)	—	—
	カタール石油開発(B/D)	5,967	(出資比率 85.8%)	—	—
	合同石油開発(B/D)	18,412	(出資比率 35.0%)	—	—

※1 SD : 定期整備等の影響を除いた稼働率

※2 生産量: プロジェクト会社の期中平均生産量。当社の引き取り量は、出資比率相当分。

All Right Reserved. Copyright © 2006 ,COSMO OIL CO.,LTD.

 **COSMO OIL CO., LTD.**

<http://www.cosmo-oil.co.jp>

【決算・予想】石油単体 中計進捗総括表

補足2

項目	部門	2006年度上期実績					2006年度 下期見通し	2006年度通期見通し		
		当初計画 (5/16 公表)	見直し 計画 (8/7 公表)	実績	達成率 (当初 計画比)	達成率 (見直し 計画比)		当初計画 (5/16 公表)	今回見通し	達成率 (当初 計画比)
		(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(%)	(億円)	(億円)	(%)	
合理化	供給	6	4	3	56%	78%	4	11	7	66%
	販売	5	5	5	100%	100%	0	5	5	100%
	管理他	2	2	2	82%	75%	3	5	5	90%
	小計	13	11	10	77%	87%	7	21	17	80%
付加価値 向上	供給	12	14	13	111%	96%	3	15	16	101%
	販売	11	9	7	63%	77%	15	24	22	92%
	その他	1	1	0	—	—	0	1	0	-50%
	小計	24	24	20	84%	83%	18	40	37	91%
総合計		36	35	30	81%	84%	24	61	54	87%

【上期決算】主要連結会社・セグメント別実績:05年度上期実績比

補足3

<<主要連結会社別>>

単位:億円

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比
コスモ石油	13,669	2,428	246	▲ 115	243	▲ 140	107	▲ 122
アブダビ石油	348	95	217	71	214	62	41	8
カタール石油開発	43	43	13	13	10	8	3	1
販売子会社	1,928	234	▲ 14	▲ 24	▲ 15	▲ 23	▲ 22	▲ 24
コスモ石油ルブリカンツ	198	37	13	7	13	7	8	4
コスモ松山石油	153	40	10	3	11	3	7	2
CMアロマ	219	167	22	21	22	21	8	8

<<持分法投資損益>>

	実績	前年同期比
持分法投資損益	40	▲ 10

<<設備投資・減価償却費>>

	実績	前年同期比
設備投資	164	22
減価償却費	176	36

<<セグメント別>> ※中間純利益は当社持分相当額です

	売上高	営業利益	
			前年同期比
石油事業	14,344	304	▲ 88
石油開発事業	392	226	81
その他の事業	386	5	6
消去他	▲ 427	▲ 49	▲ 20

【通期予想】主要連結会社・セグメント別予想:05年度通期実績比

補足4

<<主要連結会社別>>

単位:億円

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
		前期比		前期比		前期比		前期比
コスモ石油	29,600	4,646	200	▲ 551	170	▲ 586	60	▲ 405
アブダビ石油	690	168	428	122	430	110	85	24
カタール石油開発	128	128	41	42	35	35	13	13
販売子会社	3,961	445	▲ 1	▲ 23	▲ 3	▲ 20	▲ 36	▲ 32
コスモ石油ルブリカンツ	400	66	26	14	26	13	15	7
コスモ松山石油	305	55	14	▲ 2	13	▲ 3	8	▲ 1
CMアロマ	505	336	34	24	34	24	13	9

<<持分法投資損益>>

	予想	前期比
持分法投資損益	90	▲ 6

<<設備投資・減価償却費>>

	予想	前期比
設備投資	440	122
減価償却費	383	100

<<セグメント別>> ※当期純利益は当社持分相当額です

	売上高	営業利益	
			前期比
石油事業	30,890	310	▲ 525
石油開発事業	820	460	166
その他事業	790	20	10
消去他	▲ 800	0	27

【通期予想】主要連結会社・セグメント別予想: 前回公表(5/16)比

補足5

<<主要連結会社別>>

単位: 億円

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
		公表比		公表比		公表比		公表比
コスモ石油	29,600	4,600	200	30	170	40	60	▲ 5
アブダビ石油	690	46	428	18	430	27	85	4
カタール石油開発	128	24	41	20	35	19	13	14
販売子会社	3,961	122	▲ 1	▲ 8	▲ 3	▲ 8	▲ 36	▲ 34
コスモ石油ルブリカンツ	400	35	26	15	26	14	15	9
コスモ松山石油	305	44	14	7	13	6	8	4
CMアロマ	505	76	34	18	34	19	13	7

<<持分法投資損益>>

	予想	公表比
持分法投資損益	90	32

<<設備投資・減価償却費>>

	予想	公表比
設備投資	440	▲ 10
減価償却費	383	42

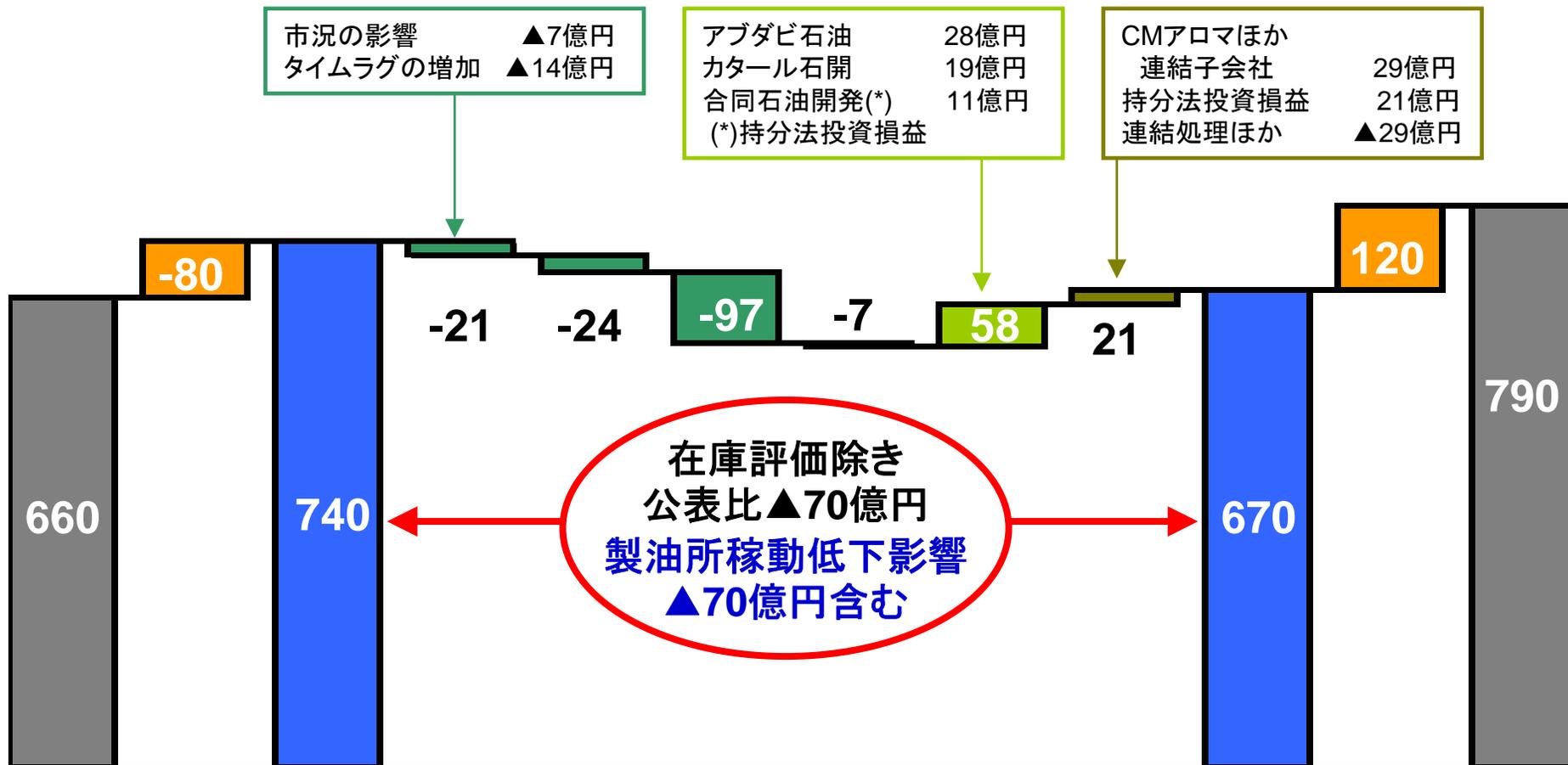
<<セグメント別>> ※当期純利益は当社持分相当額です

	売上高	営業利益	
			公表比
石油事業	30,890	310	50
石油開発事業	820	460	40
その他の事業	790	20	5
消去他	▲ 800	0	5

【通期予想】連結 経常利益 増減分析 前回公表(5/16)比

補足6

単位:億円



在庫評価除き
公表比▲70億円
製油所稼動低下影響
▲70億円含む

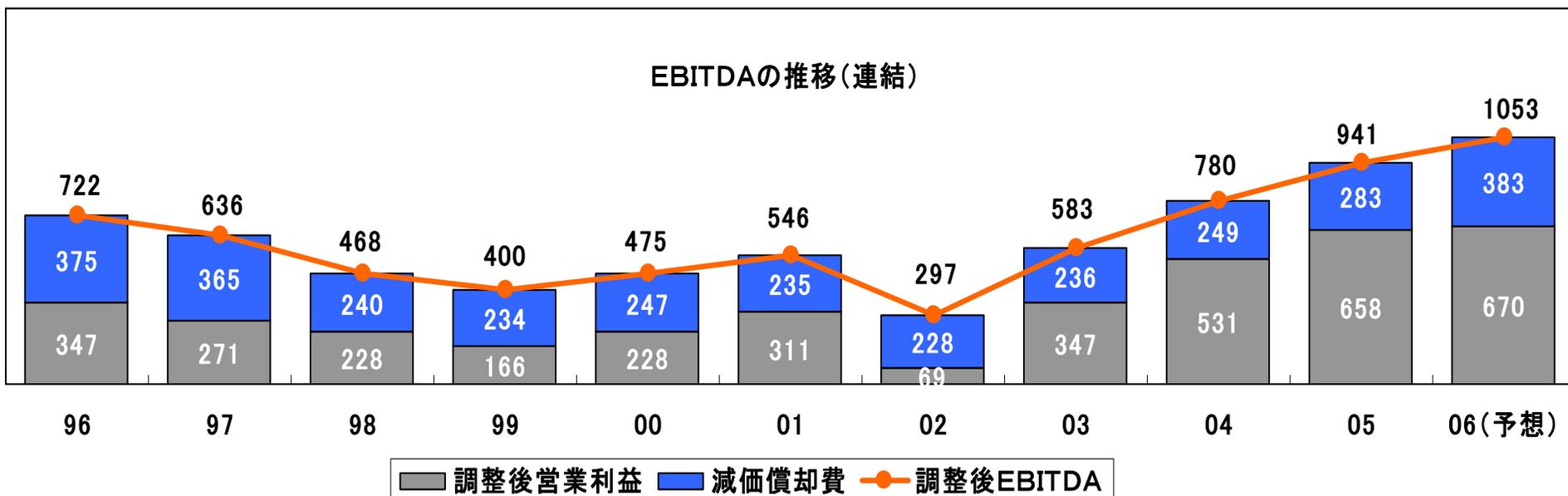
2006年度通期 前回公表			2006年度通期 今回公表								
経常利益	在庫評価の影響	在庫評価除きの経常利益	石油単体				石油開発会社	その他	在庫評価除きの経常利益	在庫評価の影響	経常利益
			市況の影響	販売数量減	供給コストの増加他	中計効果					

【通期予想】連結 在庫評価の影響除きのEBITDA推移

補足7

単位:億円

EBITDAの推移(連結)



■ 調整後営業利益 ■ 減価償却費 ● 調整後EBITDA

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度 (予想)
会計上の営業利益	221	242	252	657	1,112	790
総平均法による在庫評価の影響(符号:対利益)	▲ 90	173	▲ 95	126	454	120
調整後営業利益(会計上の営業利益-在庫評価の影響)	311	69	347	531	658	670

2000年度より在庫評価方法変更

【中間期決算】人員数、油槽所数、SS数、カード枚数推移

人員数推移

	99/3末	00/3末	01/3末	02/3末	03/3末	04/3末	05/3末	06/3末	06/9末
石油単独	2,677	2,048	1,970	1,892	1,837	1,764	1,729	1,718	1,898
グループ	5,256	4,600	4,416	3,978	3,736	3,565	3,480	3,451	3,400

※グループ: 石油単独+出向

油槽所数推移

	99/3末	00/3末	01/3末	02/3末	03/3末	04/3末	05/3末	06/3末	06/9末
DT数	52	45	41	39	39	38	38	38	38

SS数推移(可搬式を含む)

	99/3末	00/3末	01/3末	02/3末	03/3末	04/3末	05/3末	06/3末	06/9末
社有	1,105	1,065	1,010	977	959	930	899	886	895
自己	5,376	5,040	4,769	4,564	4,313	4,112	3,912	3,760	3,592
合計	6,481	6,105	5,779	5,541	5,272	5,042	4,811	4,646	4,487

上記のうち、セルフSS数及びAuto B-CleSS数

	99/3末	00/3末	01/3末	02/3末	03/3末	04/3末	05/3末	06/3末	06/9末
セルフ	5	8	23	109	285	398	483	626	720
Auto B-Cle	-	-	-	217	428	652	652	469	456※

※Auto B-CleSSの定義を厳格化したためSS数は減少。但し、ネットワーク数(59)については変更ありません。

コスモ・ザ・カード枚数推移(06年9月末よりオーパスも含む)

	00/3末	01/3末	02/3末	03/3末	04/3末	05/3末	06/3末	06/9末
有効枚数(万枚)	146	162	185	213	239	242	255	267

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。